

明けまして おめでとうございます。

よき力に守られ、支えられて、皆様と共に新しい年を迎えられましたことを慶び感謝します。この年も子どもたちの成長を援け、見守る歩みを皆様と共に始めます。どうぞ、宜しくお願い致します。

今年の干支は「子」(ねずみ)ですね。日本ではねずみは家具や食べ物をかじったり、年配の方々は天井裏を駆け回って運動会でもしているのではないかと思うような経験を持っている方もおられるのではないのでしょうか。

ねずみというのはいろんな悪さをするけれども、不思議に日本では憎めない愛らしい動物だという風にみられているようです。

童話の中にねずみがたくさんでて来ています。たとえば「俵はごろごろ」という歌、「ずいずいずっころばし」という童謡、「おむすびころりん」という民話の中でもねずみは人間に対して好意を持っているかわいらしい動物となっています。

一方アメリカでは食料被害は膨大なもので、ネズミによる損害はかなりのものがあるらしい。にもかかわらず一般の国民の間では大好きな「ミッキーマウス」の漫画を代表として、「トムとジェリー」という猫とねずみの一年中おいかっこをしている、人気のあるおもしろい漫画がありますが、アメリカでもねずみは愛すべき動物と考えられているようです。

さて聖書の中ではねずみは、あまり出てこないのですが、旧約聖書に「とびねずみとかもぐらねずみ」という名で7回ほど出てきますが、神さまの前で汚れたものの部類に入り、食用にはならない動物と考えられています。

このことはなぜ陸続きでありますヨーロッパ全土ではねずみは忌まわしい動物と考えられていたのかに関連しています。世界のねずみ観の違いはどこにあるのか、ペストの体験があるかどうかにかかっているようです。ヨーロッパでは6世紀にローマ帝国の住民の約半数がペストで死んだとされる恐ろしい疫病の一つです。19世紀には完全に制圧され、ほとんど見ることはありません。

ペストという病気は日本ではもちろん流行したことはありませんし、今日ではほとんど世界から撲滅されたと考えられています。

大昔から神様に造られ、生かされている人間も動物もいかにしたら共に生きあうことができるのか、聖なる知恵が必要だったのですね。

目を覚ましていなさい。信仰に基づいてしっかり立ちなさい。

何事も愛をもって行いなさい。……1コリント16:13~4